

「ハンセン病問題を学ぶ」 (特別の教科 道徳)

対象：中学生以上

1 主題名 「ハンセン病問題を学ぶ」・2年（6時間扱い）

内容項目 C (11)

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。

2 資料名 資料：「人としての尊厳を求めて～ハンセン病問題は人権問題～」

（『あけぼの 人間に光あれ』6訂版）

パンフレット：「ハンセン病の向こう側」（厚生労働省）

パンフレット：「ハンセン病問題について考えてみませんか！」（長野県）

DVD：「ハンセン病問題を知る ～元患者と家族の思い～」（法務省人権擁護局）

3 ねらい

ハンセン病問題にかかわる様々な資料を通して、差別の歴史や実態、差別の中を生き抜いてきたハンセン病回復者とその家族の人たちの生き方に学ぶことで、差別のない社会の実現に努める態度や行動が大切であることを感得するとともに、身近な問題も含めて差別や偏見を克服し、人権尊重の精神を育む。

平成13年（2001年）5月、ハンセン病訴訟は原告団の勝訴となり、長年にわたり隔離政策を続けてきた国の責任が明白となった。これほど長期間隔離政策がとられてきたのには、国民一人一人の偏見や無関心により、世論の高まりが遅くなったことにも原因があると考えられる。また、2008年「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」の制定とハンセン病回復者の被害回復に向けて大きく動いた。そして、2019年にはハンセン病家族訴訟の勝訴によって家族も被害を受けたことを認める判決が下された。ハンセン病問題を学ぶことは、ハンセン病に関わる偏見や差別をなくしていくとともに、今後、新たな差別や偏見を生まないためにも大切な学習である。

4 人権教育とのかかわり

○ハンセン病問題に関わる歴史的な経過や課題を理解する。（知識的側面）

○社会の偏見や無関心が差別を助長してしまうことを理解する。（知識的側面）

○ハンセン病回復者とその家族の生き方に共感するとともに、回復者とその家族の心の底にある思いを想像できる。（価値・態度的側面、技能的側面）

5 指導上の留意点

○ハンセン病回復者の語る内容には、隔離政策による被害を訴えるものが多くある一方、療養所へ入所したことに対して感謝する内容のものもある。しかし、回復者の心情を読み解いていくと、感謝の言葉の中に被害が隠れていることがある。回復者の心の底に思いを寄せる取組が必要である。

○新型コロナウイルスをめぐる状況の中で起きた差別と、日本のハンセン病問題との類似性が語られることが多いが、被差別の当事者にとっては、その被害はそれぞれが深刻で、質的に違いもあるので慎重に扱いたい。その上で、特に学ぶべきことをあげると、患者の人権を第一に考えるということである。また、差別する側の考え方は共通するということである。（『あけぼの 人間に光あれ』6訂版 活用の手引きから）

6 単元展開の概要

	学習活動	教師の指導・留意点	備考
第1・2時	1 ハンセン病に関わる偏見や差別の歴史を知る。	<p>○資料「人としての尊厳を求めて～ハンセン病問題は人権問題～」から、偏見・差別に対する憤り、疑問や関心が今後の学習に活きるようにする。</p> <p>○ハンセン病に関わる疑問点についてパンフレット等を調べながら、偏見や差別が、なぜ続いてきたかを考える。</p> <p>・「ハンセン病はどんな病気か」「隔離政策とは」「ハンセン病療養所の様子」「長野県ではどうだったのか」等の疑問を班ごとに調べて発表し合う方法もある。</p>	<p>「人としての尊厳を求めて」 (『あけぼの 人間に光あれ』) パンフレット 「ハンセン病の向こう側」 「ハンセン病問題について考えてみませんか！」</p>
第3・4時	2 ハンセン病に関わる偏見や差別が、なぜ続いてきたかについて、DVD「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」(34分)を視聴し、考えを深める。	<p>○ハンセン病に関わる偏見や差別が、なぜ続いてきたかについて、調べたことや自分の考えを発表し合う。</p> <p>○DVDを視聴後、ハンセン病問題は、回復者だけでなく、その家族も偏見や差別にさらされてきたことを確認する。</p> <p>○隔離政策が行われている中で、もし自分がハンセン病回復者やその家族ならば、どんなことを考えるか問う。</p> <p>○隔離政策の当時、自分の周りに差別されている患者や家族がいる状況で、自分ならどうしたか問う。</p> <p>○偏見や差別のない社会を実現するためにどうしたらよいか、自分の考えをまとめる。</p> <p>・自分の身の回りの問題とつなげて考えている生徒の文章を紹介し、自分の在り方・生き方を見返していくことの大切さを確認する。</p>	<p>DVD「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」(企画・制作：法務省人権擁護局(財)人権教育啓発推進センター)</p>
第5・6時	3 当事者の講演を聴き、その生き方に学ぶとともに、新たな差別や偏見を生まないためにはどうしたらよいか考える。	<p>○講演会の前に、講師に聞いてみたいこと、伝えたいことを学習カードに記入して講演に臨むように促す。</p> <p>○差別や偏見をなくしていこうという気持ちを持たせるとともに、困難な状況を生き抜いてきた人間としてのすばらしさにも学ばせたい。</p>	

○資料について

- ・DVD「ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～」はYouTubeでも視聴ができます。
- ・映像資料として、『津軽光の向こうに』(NHK制作)、『ハンセン病回復者最後のメッセージ』(SBC制作)等を教材として活用した学校の例がある。
- ・『ハンセン病を生きて』(伊波敏男著 岩波ジュニア新書)、『差別とハンセン病』(畑谷史代著 平凡社新書)には、長野県内の小中学生の学習の事例が紹介されている。
 (映像資料・関連書籍や講演会の企画について情報を得たい場合は、心の支援課までご相談ください。)